



ふくおか
ものづくり補助金
成果事例集

帯鋸目立加工機械の更新による 製材機能の向上と新たな事業機会の確保

組合員である木材加工業者の製材機能の再生や強化を図るため、木材切削用帯鋸を研磨する目立加工機を更新。国産材・地域材の利用拡大とともに職人の作業環境や雇用環境の改善も狙いました。



30年ぶりに更新した帯鋸目立加工機

PICKUP STORY

地場産業を陰ながら支える砦^{とりで}

家具・木工の街として全国的に知られる大川で木材加工業者の振興を図るため、かつては木材の荷役業務を担っていました。現在は製材事業、帯鋸を研磨する目立加工事業、フォークリフト法定点検の3事業を展開し、組合員の活動を支援しています。

老朽化した設備の更新で事業の質を維持

主力事業の帯鋸目立加工事業は、組合員の木材加工業者が単独で手がけるには設備の導入や維持に大きな負担がかかります。組合にとっても地域産業を支えるため最も重視している取り組みです。昭和50年代から組合事業として展開してきましたが、設備の老朽化

で更新の時期が迫っていました。単独では十分な予算が確保できない状況で事業の質をどう保っていくかと模索していた時、ものづく



職人の技で緻密に仕上げていく

インテリアの街を支えて磨き上げるため新設備を導入

り補助金の存在を知り、設備更新に踏み切りました。

加工のムラが減って仕事に余裕

今回、加工機については「効率が良くて安いものを」（中田景三専務理事）とのコンセプトで2台導入しました。それらは導入した当初から、従来の機械に置き換わるような活躍を見せて効果を上げています。帯鋸を研磨する部分が以前の機械に比べて、より安定的に固定できるようになりました。現場の職人からは「加工のムラが少なくなった」と喜びの声が出ています。

現場では加工機によって約8割をメンテナンスし、残りを職人の手で緻密に仕上げていきます。機械



「木工の街をこれからも支える」と語る中田さん



正確なリズムで研磨加工していく

での研磨にかかる時間が以前と比べて短くなった分、職人は時間的に余裕をもって仕上げ作業に充てられるようになりました。

POINT

● 補助金活用 ここがポイント ●

職人を支える上でもプラスに

「職人による仕上げが一番重要」と中田さん。コンマ数ミリメートルの精度でメンテナンスできるのはベテラン職人が存在してこそ成り立っています。目立加工機の更新で職人の負担を減らし、働きやすい環境を築いています。地場産業を陰で支える上でも設備更新は次世代への一歩につながりました。

COLUMN

地場産業を支える事業者のために

Q1 補助金活用のために意識したことは

更新の必要性が差し迫っていることを文面に織り込むことを意識しました。『更新しないと組合員を守れない』との使命もあり、大川インテリア振興センターのアドバイスも受けながら進めました。

Q2 更新後にどんな変化がありましたか

新しい機械を導入したことを地域にPRし、数件の新規ユーザー獲得にもつながりました。組合事業として地域事業所に貢献することを目的にやってきましたので、これからもその思いを大切に取り組んでいきます。

DATA

大川木材事業協同組合



代表者	理事長 新原 俊彦
所在地	〒831-0041 福岡県大川市大字小保594
TEL	0944-86-2187
FAX	0944-88-3096
事業内容	製材事業、帯鋸目立加工事業、 フォークリフト法定点検事業
出資金	4824万円

設立	1950年（昭25）
組合員数	50人

